

# タクシー AIで相乗り

## アプリに行き先 料金最大4割安く

### つばめグループが実験

名古屋市中心に展開するタクシー大手「つばめグループ」が19日、人工知能(AI)を活用した「相乗り」タクシーの実証実験を同市内で始めた。中部地区のタクシー業界では、スマートフォンアプリを使った配車サービスの充実など、情報技術(IT)による利便性の向上で、利用客の減少に歯止めをかける試みが進んでいる。(秋田穂)

中部地域でITを活用したタクシー業界の主な取り組み

<b>つばめグループ</b>
2012年から無料スマホアプリ「スマたく」を導入。18年2月より人工知能による需要予測を開始。19日から「相乗りタクシー」の実証実験
<b>名鉄タクシーグループ</b>
15年からアプリ「LINE」のタクシー配車サービスに対応。17年から名鉄グループのアプリ「名鉄タッチ」も提供開始
<b>ジャパntaxi(東京)</b>
アプリ「全国タクシー」を運営し、トヨタ自動車が出資。名鉄、つばめ、宝タクシー、フジタクシーなど東海3県で約50の事業者が導入している



「乗合」と表示されたタクシー(名古屋市中区で)

相乗りタクシーは、実験に協力する利用者が専用アプリなどを使って行き先を入力すると、相乗りが成立

した場合と、しなかった場合の2種類の料金が表示される。相乗りの申し込みがあると、AIが目的地や経路などを計算し、途中で新たな客を乗せる仕組みだ。料金は最大約4割安くなるという。

この日、同市中区のグループの1社つばめ自動車本社で午前8時ごろから、運転手らが「乗合」と書かれたプレートや対応するタブレット端末を設置した。同社の天野清美社長は「ITを活用しないと生き残れない」と話した。専用アプリなど事前の登録者は約150人で、1000人を目指

している。実験は3月5日までで、2019年中の本格導入を検討する。県内の15年度のタクシー

### 運輸会社の制服 短大生デザイン

選考会最優秀



選ばれたユニホーム(左)とデザインした南さん

岡崎市の運輸会社「大洋荷役」のユニホームのデザインを公開のファッションショー形式で選ぶ選考会が開かれ、愛知学泉短大2年、南涼香さん(20)の作品が最

利用者数は、10年前から約2割減り、人手不足の深刻化で、運転手の確保も難しくなっている。

同市の名鉄タクシーホールディングスも通話アプリ「LINE」などで配車サービスの開始した。タクシー車両の大半を手がけるトヨタ自動車は今月、タクシー大手・日本交通(東京)のグループ会社で、タクシーの配車アプリサービス「全国タクシー」を提供するジャパntaxi(東京)に約75億円を出資した。18年度中に、需要の高い場所や時間帯などをAIが予測する効率的な配車システムを共同開発する。

優秀に選ばれた。南さんのデザインに基づいて製作し、衣替えに合わせて10月から280人の全社員が実際に着用する。

同社では、創立30周年の